414
A4019

宮内省圖書

明治七年目的表付言

第一條

此表ハ會社ニ作レル仕方概表ナル者ニ基キ簡明ヲ要トシ削補意ニ從イ自ラ觀覽ニ供ス

第二條

来歳ヨリ社業ヲ擴張スルニ巨萬ノ資本金アル可シ會社既ニ其方法ヲ政府ニ上請セリ

第三條

井數ノ增加及ヒ代金諸費等皆概表ニ據ル但シ概表ハ諸費

大正十一年四月
宮内省図書寮

司法省

ト月給トヲ分ツ今之ヲ合ス槩表ハ社金ヲ諸費ニ合スルニ似タリ今之ヲ分ツ

第四條

休日ノ一槩表ニ見ヘス本社既ニ二七ヲ休日トス各地ノ営業モ亦タ遂ニ休暇ナカル可ラス因テ毎月六次及ヒ十二月廿八日ヨリ一月初三日マテ紀元天長ノ両節該數八十一日ニ除ク但シ邦人ニ定ノ休日アルハ官員ニ止リ農工商ハ作輟常ナキヲ通習トス各地ノ社業モ姑ク雇人輩ノ望ム所ニ從フ可シト雖モ出張ノ役人ハ休日ナカル可ラズ

第五條

出油ノ量ハ會社目的ノ外三部ヲ補入シ来歳ノ真數果シテ其何部ニ近キヤ之ヲトセント欲ス

第六條

教師トハ會社ニ雇ヒ入レシ米人「ヨーシー、タン」ヲ指フ其言ニ曰ク十分ノ成功ニ至レハ一日一井ノ出量一千「ガルロン」ヨリ四千「ガルロン」ニ至ル可シ議案之ニ見テ今ソノ最少ノ出量ヲ其目的トスル者、退歩ノ意ヲ用ヒルナリ

第七條

司法省

平均トハ會社目的ト教師目的トノ數二十六石五斗ノ處
姑ク之ヲ三十石ト定ムルヲ云フナリ

第八條

米人某氏ノ著セル諸油論説ナル書ニ米國ノ油井ヲ説キ曰
ク一日四千カルロンヒヲ出ス者ハ有ルヿ稀ナリ二千カルロンヒヲ出
ス者ハ上井トス大氐二百カルロンヒヲ常トストアルヲ以テ假リニ之ヲ
米國平均ノ數トス但シ二百カルロンヒハ我カ四石五斗ニ當リ平均
三十石七分ノ一ニテ過少疑フヲ可シト雖モ姑ク其部ヲ立ツ其
變ヲ觀ルニ供ス覧者之ヲ不祥トスルヿ勿レ

第九條

益金配分ハ概表ニ見ヘス今規則ノ二等法ニ從イ十五分ノ四五六
假リニ同示例ノ一等五十人二等百人三等五百人云々ニ依リ
推算補入ス更ニ三分ノ一減ヲ掲ク者ハ亦タ退ケ少ノ從
意ヲ表スルナリ抑配金ハ平分ヲ正理トス因テ又ヽ之ヲ丹載
シ他日公論ノ帰スル所ヲ待ツ

第十條

金ハ圓ヲ單位トシ量ハ石ヲ單位トス奇零ノ數アレハ單位
ニ句讀ス

第十一條

配金ノ歩數ハ首位ヲ株金高ノ同位トス配金モシ株金高
三至ラサレハ首位ニ〇ヲ表ス

明治六年癸酉十二月三十一日　株主大草孝昭撰